

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700268
法人名	医療法人青峰会
事業所名	グループホーム かざぐるま
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町大久1391-1
自己評価作成日	平成24年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「かざぐるま」は目の前には宇和海が広がり、裏には山があり、緑に囲まれて、自然に恵まれた開放的な環境の中で、家庭的な雰囲気と、地域住民との交流のもとで、利用者の方々が、穏やかに、安心して日常生活を営むことができるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年8月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●法人の栄養士が献立を考えておられるが、畑で収穫した野菜やいただき物等も使って、事業所で食事を作っておられる。飲み込みにくい方には、ご本人の様子をみて、職員が「ごっくん」と言いながら介助されたり、個々に使いやすいスプーンを用意されていた。食材は、近くの商店やAコープへ利用者と一緒に買い出しに行かれている。利用者は、テーブルを拭く等されている。何でも口に入れてしまう利用者があり、現在は、食事の準備等は職員が行っておられる。誤嚥が心配な利用者には、食材は小さめに切っておられ、ゆっくり食事してもらえよう職員は隣に座り、メニューを伝えたり、「ゆっくり味わって食べてくださいね」と言葉をかけておられた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム かざぐるま

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

清水 千鶴

評価完了日

平成24年7月15日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 認知症であっても、一人ひとりが地域にとけ込んで当たり前 に暮らせるよう謳った理念を掲げている。</p> <p>(外部評価) 「認知症であっても、一人ひとりが地域の中で当たり前 に暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」と事業所理念 を掲げ、新人職員や法人内で異動して来られた職員には、 まず理念を理解してもらえよう話しておられる。職員会時 には、理念に沿ったケアが実践できているか、職員で確認さ れている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している</p>	<p>(自己評価) 地元の保育所、小学校などとの交流を通じて、父兄や地域 の方々とも交流する機会を沢山もっている。地域行事には、 できるだけ利用者と参加して、地域の方々と触れ合う機会を 作るようにしている。職員が地域の防災訓練やクリーン作戦 に参加し、地域の一員として交流している。</p> <p>(外部評価) 季節のよい時期には、積極的に散歩に出かけて、利用者が 地域の顔なじみの人達に会えるよう支援されている。隣接し ている保育園との交流は頻繁にあり、運動会の際には、利 用者も「宝さがし」に参加して園児と楽しまれた。小学校の児 童が学年ごとに訪問してくれており、児童が作ってくれた首 飾りやお手紙をもらったり、肩たたきをしてくれてふれ合っ ておられる。事業所前の広場は地域交流の場所となっており、 地域の七夕や盆踊り等のイベントを行われたり、高齢者の人 達が定期的にゲートボールを楽しまれている。利用者は見 学をされたり、時にはみなさんが立ち寄ってくださることもあ る。庭木の剪定を地域の方がボランティアで行なってくだ さった。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 学校の職場体験、施設訪問受入れなどの際に認知症につ いての説明や、グループホームの役割などを案内し理解を 深めてもらえるようにしている。</p>	

グループホームかざぐるま

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の現状、サービス内容、活動報告などを通して出席者の方々より意見や感想などを今後のサービス向上に繋げるようにしている。会議のメンバーに、新たに区長や民生委員の方にも出席を依頼し、地域の方に幅広く施設のことを知ってもらえるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 会議では、事業所の状況、活動、職員研修等について報告されている。会議と合わせて消防署の協力を得て避難訓練を実施された際には、出火場所によっては、非常口を使用する必要があり、現在、階段の非常口をスロープにできないか助言があり、現在、法人に提案しているところである。区長は、自主防災会会長をされており、地域の自主防災のあり方の課題等も話して下さった。又、事業所での訓練にも立ち会って下さり、認知症の人達の避難方法についても知っていただけ「協力をしていきたい」と言っていた。管理者は「これからは地域の方々にもっと認知症を理解していただけるよう、会議の内容等も工夫していきたい」と話しておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入退去時や介護認定更新の際の情報共有、感染症予防や事故防止などの取組み、又、研修会などで協力し、連携している。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月毎に、町内介護保険事業所のケアマネジャーの連絡会があり、情報交換されたり、研修の案内もいただき、職員も参加されている。介護相談員の訪問が毎月あり、又、運営推進会議にも参加して下さっており、顔見知りになっていて、利用者とお話して暮らしの希望を聞いてくださっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員に身体拘束についての研修会に参加してもらい、全職員で情報を共有し、周知徹底するよう努めている。玄関にはドアチャイムを設置し出入りを感じ出来るようにし、施錠はしないようにしている。</p> <p>(外部評価) 新人職員は、法人で身体拘束について職員研修を受けるようになっており、その後も職員は、内部・外部研修に参加して学び、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。特に言葉による拘束はしないように取り組まれているが、拘束と思われる言葉かけがあった時には、その場で職員同士で注意し合うようにされている。利用者は、日中は、居間で過ごされることが多いが、居間に姿が見えない時には、職員は必ず所在確認をされている。</p>	

グループホームかざぐるま

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員に虐待についての研修会に参加してもらい、全職員で情報を共有し、虐待の定義や規定に関して勉強し、虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 行政やグループホーム協会主催の研修会などに参加して学ぶ機会を持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の手続きの際は、契約書や重要事項説明書について十分な説明を行い、退去の際は、利用者や家族が安心できるよう配慮し、理解や納得を得るように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時やケアプラン更新時には要望や意見を聞くようにしている。急ぎの件は直ぐに取り上げ、その他の事案はスタッフ会議で話し合い、運営に反映出来るようにしている。 (外部評価) ご家族から、「笑顔が出て安心です」等の声はあるが、運営に関して意見や要望が出されることは少ないようである。毎月、お手紙に写真を同封して近況を報告されている。遠方に住むご家族の中には、毎回、お礼の電話をくださる方もある。「家族会」は、そうめん流し等の行事と合わせて行っておられるが、高齢の方や遠くに住むご家族もあり、出席が難しいようである。今後さらに、ご家族の事情等も踏まえ、利用者のご家族のつなぎ役として、報告や支援を工夫されてはどうか。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 半年に1回管理者面接、2ヶ月に1回法人の運営会議があり、意見や要望を伝える機会があり、職員は、月1回のスタッフ会議で意見交換する機会を設け、反映するようにしている。	
			(外部評価) 職員は法人内の異動も少なくなく、記録様式は、職員が異動になっても対応できるように、法人内で統一された様式を使用されている。スタッフ会時、「トイレ介助時に、広さの制限もある中で、利用者のパッド等が分かりにくかったり、取りにくかったりする」ことについて意見が出され、みなでアイデアを出し話し合われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人内で人事考課表を取り入れ、努力や実績及び勤務状況などを把握して職員の評価を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や勉強会、グループホーム協会の研修を順次受けるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人内のグループホーム管理者の連絡会や、運営推進会議に地域の同業者を招いて情報交換を行いケアサービスの質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前のアセスメント時から、本人の思いや要望、今までの生活歴などを聞く機会を持ち、信頼関係を築いていけるよう努めている。	

グループホームかざぐるま

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前のアセスメント時や契約時に、家族の思いや要望などを聞く機会を持ち、施設で出来るサービスを説明し、安心して信頼関係を築いていけるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ホームで対応出来ないケースの場合は、他の機関に相談したり、連携し、対応できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除や洗濯物たたみ等、できることはやってもらい、利用者とは協力し合っている。昔の出来事など、職員は利用者から教わることもある。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の少ない家族には、近況報告の際に連絡したり、行事の案内をして、本人と家族の繋がりを途切れさせないように働きかけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人の来訪時には、一緒に写真を撮ったり、写真を居室に飾り、本人が大切な人や場所を覚えておけるよう支援している。家族の協力を得て、時々利用者が自宅に戻って過ごせるよう支援している。 (外部評価) 「住み慣れた地域で暮らしたい」と、県外のご家族との同居を断られた利用者もあるが、友人が毎日会いに来てくださり、楽しくおしゃべり等して過ごされている。これまで毎月、ご自宅に戻って泊まっておられた利用者の方は、最近は状態のこともあり、体への負担も考慮して日帰りするように支援されている。ご自宅では、ご家族の方が食事を作ってくださいようだ。ご家族と計画を立てて、故郷にドライブに行ったり、病院受診の帰りには以前、住んでいた地域をドライブされることもある。職員は、利用者から昔の地域の様子を教えていただくこともよくある。事業所の前の広場で行われる盆踊り大会を利用者は準備から見学され、地区で大切に受け継いでいる盆踊りも踊られ、利用者は楽しみにされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者それぞれの相性を把握し、できるだけ一緒に仲良く過ごせるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) いつでも来訪していただけるよう、施設外であった際にも声掛けを行ったり、連絡を取るよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で意思疎通が困難な方にも、本人の視点に立って行動や表情などから、思いや意向を把握するようにしている。介護記録に本人の様子や言動を詳しく記入し、ケアプランに反映するようにしている。 (外部評価) 法人の病院から入居となる方が多く、退院前のカンファレンスには管理者も同席して、ご本人やご家族のこれからの暮らし方について意向を聞いておられる。職員は、夜勤の際に、ゆっくりテレビをみながらお話を聞く等されている。介護記録は、誰が見ても分かるように専門用語を使わず「ありのまま」を書くことに努めておられる。	以前との生活の変化や嗜好の変化、思いや意向等を把握できるように、アセスメントを工夫されてはどうだろうか。さらに、日々利用者から得た情報を蓄積して、利用者をご本人らしく暮らし続けられるような支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に本人や家族から生活歴などを聴き取るようにしている。入居後も昔の話や、若い頃の思い出などの会話を通して本人の生活歴や価値観などを把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの、その日の過ごし方、体調、行動、言葉など記録を取り、変わった事や気づいたことなどを毎日申し送りをして職員全員が把握し共有できるようにしている。	

グループホームかざぐるま

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) スタッフ会において利用者個々の状態を踏まえて意見交換を行い、介護計画を作成している。家族に介護計画書を送付する際や面会時に意見や要望を伺うようにしている。毎月モニタリング表を記入し介護計画に反映させている。	
			(外部評価) 介護計画には、ご家族の要望や意見も採り入れられるように、来訪時や電話等でお聞きしている。誤嚥や転倒の心配がある利用者へは見守り、午後から「帰りたい」という気持ち強い利用者には、体操や風船バレー等、日中の運動量を増やす等され、安眠にもつなげ介護計画に採り入れて、生活のリズムを作るようにされている。3ヶ月ごとにスタッフ会で話し合い見直して、介護計画を作成しておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 食事、排泄や暮らしの様子など個別に記録し、変化や気をつけることがあれば申し送りや日誌に記入して職員全員が把握するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の要望や状況に応じて通院、外出支援など臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣地域の保育所、小学校とは緊密に交流があり協力して頂いている。	

グループホームかざぐるま

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>月に1回協力医療機関から定期的に往診があるが、本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医に受診できるよう家族と協力しながら支援している。基本的には定期受診は家族に同行して頂くようお願いしているが、家族の都合によっては職員が同行している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>近くの診療所で診てもらっている利用者が多いが、町外の病院へ受診する際は、ご家族や職員が付き添っておられる。歯科は、訪問診療を受けておられる。調査訪問時、母体病院から看護師が訪問しており、利用者の日々の記録等を見ておられた。看護師から水分摂取についてアドバイスされたり、職員から体調面等で気になることを相談されている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>医療連携看護師に母体の病院より週一回訪問してもらい、「入居者状態報告書」を毎日FAXし、相談しながら健康管理を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の情報を病院に提供し、情報交換に努めている。医師や家族と相談しながら、対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう支援している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>入居契約時、本人や家族に医療連携の指針に基づき、重度化し看取りの必要が生じた場合、施設でできることなどについて説明している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時には看取りの指針に沿いご家族に説明され、利用者の状態に応じて、事業所で出来る事出来ないことを話しておられる。「事業所では医療行為は出来ないこと」「往診が受けられないこと」を説明し、他の施設や病院へつなぐようにされている。</p>	<p>重度化や終末期の支援については、かかりつけ医の往診が望めないこともあり、ご本人ご家族が「最期までここで」と希望された場合でも、支援に難しさがあるようだ。地域密着型サービス事業所として、ご本人やご家族から希望に沿い、馴染みのあるご自宅や事業所で最期まで暮らせるような体制作りをすすめていけないだろうか。事業所の看取りの指針や方針に沿って、みなでできることを話し合ってみてほしい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 法人内の看護技術勉強会に参加したり、消防署の救命講習を受けたりしている。急変時対応マニュアルの本も事務所に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署の指導により、夜間の災害を想定した避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し、災害時は地域の消防団に協力して頂けるようお願いしている。 (外部評価) 事業所には利用者全員が乗れる車があり、東日本大震災時、津波の避難勧告が発令された際には、みなで高台に避難された。夜間想定避難訓練を実施した際には、運営推進会議のメンバーに、利用者役になっていただき、マットレスを用いて利用者を避難させる訓練を体験された。その際にメンバーの方から気づいたことやアドバイス等をいただいた。地域の津波想定避難訓練時には、多くの地域住民の参加があり、事業所からも利用者や職員で参加して、避難場所まで避難された。その際には3名の消防団員も事業所に応援に来てくださった。	海のそばに立地する事業所でもあり、特に地震や津波が発生した場合の避難訓練を繰り返して、職員は、自分自身や利用者の身を守る方法を身につけられるよう、取り組まれてほしい。又、火災等については、近所の人達の協力もお願いする等、協力体制作りに取り組まれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を傷つけないように排泄の声掛けや誘導などは、さりげなく行うよう配慮している。全職員が個人情報保護法の理解に努め利用者のプライバシーに関わることを外部に漏らさないよう徹底している。 (外部評価) 無断で居室に入られることを嫌がる利用者には、必ず「お部屋の掃除をしますので入らせてください」等と、入室する理由を伝えるようにされている。隣接している保育所の職員は、事業所職員の声の大きさや言葉かけについて、気になる時には教えてください、管理者は職員に注意を促しておられる。調査訪問時、職員は利用者に親しみを持ち、元気な声で言葉をかけておられたが、大きさやご本人の誇り等に配慮が必要と感じるような場面も見受けられた。	トイレや居室に置いている個々の排泄用品等の整理や、職員の利用者へ対する言葉かけについて、利用者の立場に立って点検するような機会を作ってはどうか。職員の気付きを促し、ケアの質向上への取り組みにつなげていかれてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事の献立の希望を聞いたり、着る服を選んでもらったり、出来るだけ利用者が決めたり選んだり出来るよう心掛けている。	

グループホームかざぐるま

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の業務を優先させるのではなく、利用者個々の生活サイクルに合わせた介護を心掛けている。意思決定が困難な利用者については、思いを押し量り、ゆったりと穏やかに過ごせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類などは家族に相談して持ってきて頂いたり、購入している。2ヶ月に一度散髪デイを設けて、出張理容室を開いている。特別の希望などがある場合には利用者家族に依頼している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員が同じテーブルを囲んで、同じ物を食べて楽しく食事ができるよう雰囲気作りを大切にしている。誕生日や行事には、特別メニューでお祝いし、利用者に喜んでもらえるよう工夫している。	
			(外部評価) 法人の栄養士が献立を考えておられるが、畑で収穫した野菜やいただき物等も使って、事業所で食事を作っておられる。飲み込みにくい方には、ご本人の様子をみて、職員が「ごっくん」と言いながら介助されたり、個々に使いやすいスプーンを用意されていた。食材は、近くの商店やAコープへ利用者と一緒に買い出しに行かされている。利用者は、テーブルを拭く等されている。何でも口に入れてしまう利用者があり、現在は、食事の準備等は職員が行なっておられる。誤嚥が心配な利用者には、食材は小さめに切っておられ、ゆっくり食事してもらえるよう職員は隣に座り、メニューを伝えたり、「ゆっくり味わって食べてくださいね」と言葉をかけておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立は栄養士がチェックしたものを使用している。食事や水分摂取状況を介護日誌に記録して、職員が情報を共有している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて職員が見守りをしたり介助を行っている。義歯洗浄剤も週一回使用して、口腔内の清潔保持を支援している。	

グループホームかざぐるま

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			利用者一人ひとりの、排泄パターンを把握し、定期的に誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価)	
			「トイレまでが遠い」と言われる利用者もあり、夜間は居室にポータブルトイレを置いて支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			食事時には汁物を付け、繊維質を含んだ献立を心掛けている。午前、午後のお茶の時間など、こまめに水分補給を行い歩行運動や体操など、適度に身体を動かすことで自然排便出来るよう取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴前にバイタルチェックを行い、体調の良い日は出来るだけ入浴してもらえるようにしている。入浴できない日は、足浴や清拭などで利用者個々の状態に応じて支援をしている。	
			(外部評価)	
			入浴は、午前・午後どちらでも希望される時間に入浴できるようになっている。午前中に入ることもできるが、利用者は「どちらでもよい」と言われるようで、現在は、週2～3回、午後から入浴されている。機械浴を利用する方は、3日に1回の入浴となっている。男性利用者2名は、一番風呂、二番風呂と交代で入れるように決めておられた。入浴剤を利用して温泉気分を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			利用者一人ひとりの体調や意思に配慮しながら、休息を促したり、寝付きの悪い利用者は、日中出来るだけ身体を動かして頂き、生活リズムを整え、睡眠を促す工夫をしている。	

グループホームかざぐるま

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者個々の薬ケースを設置したり、服薬一覧表を作成し、薬品名、効能、副作用などを周知するようにしている。服薬時は本人に手渡したり、必要に応じて介助を行い、きちんと服用できているかの確認をしている。状態変化があった場合は、すぐに主治医や看護師に報告するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみや掃除など、できることを職員と協働し、その都度、感謝の気持ちを伝えるよう心掛けている。歌やテレビ鑑賞が好きな人など、希望に沿って採り入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の体調や天候に応じて、日光浴や散歩に誘ったり、月に1回は野外レクリエーションを企画し、気分転換が出来るよう外出の支援をしている。	
			(外部評価) 利用者は、職員と一緒に海岸沿いを歩いたり、小学校まで散歩したり、日々の食材の買い出しやごみ出しもされている。地域の行事やお花見に出かけたり、ドライブがてら誕生日には隣の町までケーキを買いに行かれる。玄関前にはベンチが設置されており、自由に外の風にあたりたり、ゲートボールの練習を見学されている。又、畑を眺めたり、時々草引きされたり、野菜の収穫を楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症により利用者が金銭管理を行えないので事務所が管理しているが、家族と相談して希望に応じて小銭を所持している方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があった場合は、電話をかけて話せるように支援している。	

グループホームかざぐるま

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>カーテンを利用して光を適切に調整したり、居間や廊下にはホームで撮影した利用者の写真を貼って、利用者が自分の住んでいる家だと安心感を持てるような工夫をしている。居間と台所が同じ空間にあり、食事を作っている様子や、御飯の炊ける匂いなど、生活感を感じられる工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関前の庭にはペットボトルの「かざぐるま」が回っていた。庭には、ひまわりや朝顔が植えられていた。廊下に行事や外出の際の写真が掲示されている。又、居間には利用者と職員で作った七夕の笹飾りが飾られていた。以前デイサービスの場所として使用されていたスペースでは、カラオケやそうめん流しをされたり、浴室の機械浴も利用されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホールにはマッサージチェア、玄関にはベンチを置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に使いた家具、装飾品などを持って来て頂く様に案内をしている。持ちこまれる品が少なく、殺風景になりにくいため、ホームで撮影した写真や学校児童との交流の際のプレゼントなどを飾って工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、ダンスやテレビ、使い慣れた椅子やお気に入りの化粧水も置かれていた。カラーボックスに、歯ブラシやコップ、身の回り品をご自分で整理している方もいる。写真や小学生からの手紙やプレゼント等は、ベッドで横になっても見られる位置に飾られていた。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室の入り口には利用者本人の写真を貼ったり、手作りの表札をかけて分かり易いように工夫している。トイレや浴室の札位置を目線の位置に付けたり、大きくするなど工夫している。</p>	